



先日は遠路和田先生には来岐いただきありがとうございました。
お陰様で会員一同大学の近況をお聞きすることができて喜んでおりました。お礼申し上げます。

岐阜県支部同窓会
事務局 大野

中部ブロック会議報告

日 程 平成18年11月18日(土) 富山市桜木町 富山第一ホテルにて
出席者 正岡学長 紫野同窓会長 以下各支部20名
岐阜県から 井上支部長 坂井副支部長 大野事務局 計3名

正岡学長より挨拶

大学と卒業生の連携が大学の発展に重要であり、本年施工した獣医学部棟は将来に向けて獣医業の核になるように努力するとのこと。政治的には規制緩和の流れの中で大学を囲む環境も厳しくなっている。ことに少子化の影響と機会均等の倫理による学部定員の枠の撤廃はすでに医歯薬学分野に迫っている。獣医学についてもこれに対し大学は生き残りをかけ努力する。このことをふまえ大学も同窓会との新しいコミュニティを目指す。

紫野同窓会長挨拶

115年の伝統を誇りにしてよりよい関係を保つように努めたい。在校生の目線を大切に世代世代の思いを汲み上げるよう活動したい。

各支部より近況報告 抜粋

○支部会費の徴収に苦慮されている(会員数200名で会費納入者35名)

○会費徴収に良いアイデアはないか。

○卒業後同窓会会員として入ってもらう為在校生に図書券を配布。

○若年層の参加が少ない。

○地方支部の会員数の激減は深刻であるので、せめて1名くらいの支部推薦枠がとれないものか。

政岡学長

地方会員減少は重大なものと認識している。その意味あいからも本校卒業生の子弟受験者名簿が同窓会より届いた時には大きな関心を持って覧る。しかし合否判定に有利になることはないと考えていただきたい。

同窓会会長

各支部会費徴収に苦慮されているが、必要とする支部に本部直納方式も検討している。

次回開催県は新潟県に決定

日 時 平成19年10月27日(土曜) 午後3時より

場 所 新潟市万代5-11-20 ホテル新潟

平成19年度麻布大学同窓会代議員議事報告

岐阜県支部代議員 坂井尚武

開催日 平成19年5月19日(土曜)

開催場所 麻布大学8号館

出席者 会長他副会長5名 理事22名 監事2名 代議員70名

代議員総会に出席して参りましたので質疑応答の要点をまとめてお知らせ致します。

○個人情報保護法により名簿の作成が困難になってきているが、同窓生にハガキを送り名簿への希望の有無を確認している。回収率は30%で掲載を拒否するのもあり空白の多い名簿になるであろう。

同窓会としての発行はこれが最後になるのではないかと考えています。

○学生の中には経済的理由で学業の継続が困難となるものもいるが入会金の半額を奨学金として支出したらどうか。

紫野会長

準会員への支出としては学術情報教育支援事業・課外活動等助成金・クラス会開催支援などが計上されている。同窓会からも奨学金を出しているが存在があまり知られていない。

同窓会の奨学金は緊急融資という形をとって60-70万を貸与してきた。今後奨学金の制度をどのようにしたらよいか検討したい。

○獣医学部の加入率は良いが他の部会の加入率が低い。獣医学部以外の会員には直接会費の請求が行われていて支部への会費を納めてくれない。

紫野同窓会会長

部会に入らず会費を直接同窓会に払う(直納)会員もいる。獣医部会だけが突出しているのではなく各部会をどのように活性化するかを考える必要もある。各支部内で横のつながりをとってもらうことが基本理念である。

○新しい事を取り入れ各部会の枠を越えないと会員は増加しない。今後はホームページを改善してより多くの会員に各部会の活動状況などの情報が行き渡るようなシステムを作ることが必要と考えているので協力をお願いしたい。

麻布大学同窓会岐阜県支部会報

発行 麻布大学同窓会岐阜県支部
第6号 2007年9月15日発行

会報発行によせて

麻布大学同窓会岐阜支部
支部長 井上 昭

会員の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。
同窓会の運営につきましては、格別のご理解をいただき、ご協力賜りますこと厚くお礼申し上げます。
大学に於いては、着々施設整備が実施されており、昨年9月には新獣医学部棟（研究室、実習室、ゼミ室、会議室）等が完成されました。誠に喜ばしいことであります。一層の充実した研究、実習が期待されます。今後とも大学各学部の内容の進展を望んでやみません。
同窓会支部としまして、母校の発展を期待するためにも、同窓会本部、大学との情報連携を密にして活動に努めなくてはなりません。
同窓会支部の活動については、先づもって親睦の輪の推進が大きな課題であり、年1回の総会、懇親会に出席いただき、会員相互の親交、情報交換、連携をとり、先生の出席、講演会も進めていきたいと考えます。
会員皆様のご意見をいただき、同窓会支部として、今後の活動の推進に役立てたいと思います。
宜しく願います。
会員皆様のご健康とご活躍を心から祈念してご挨拶と致します。

麻布大学同窓会岐阜県支部会員の皆さんへ 麻布大学の方向性について

麻布大学
学 長 政岡 俊夫

平素より本学の教育研究活動にご理解とご支援を賜り、紙面を借りて心よりお礼申し上げます。過って大学は、象牙の塔とか白い巨塔と揶揄され、一般社会とは別次元の組織であるかのように扱われていた。しかし、今世紀に入り顕著になってきた少子化（18歳人口の減少）は、明らかに大学そのものの体質を根底より変換させなければ、その存続さえ危うくなる時代を迎えている。個々の大学が個性と特色をより鮮明にして、生き残りをかけて改革に取り組んでいるのが現状である。

本学では人と動物と環境の共生を教育研究の柱とし、生態系と人間社会の接点において生じている諸問題に鋭意取り組む人材養成に努めている。その中で平成20年4月には、環境保健学部を改組して、生命・環境科学部とし臨床検査技術学科、食品生命科学科、環科学科の3学科を設置して、人の健康社会に寄与することができる人材養成を行うこととした。この改組により、獣医学部とはこれまで以上に密接に協力して、動物を介して人健康社会に影響を及ぼす分野の教育研究を特色とする、本学の個性をより鮮明できる組織となったと確信している